あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.243　2023.3.15

もくじ

特　　集 ◇ 新博物館“ここ”にあり！　建設前発掘調査特集 ……2
博物館TOPICS ◇ 職場体験『博物館のお仕事』リニューアル・オープン準備中の現場にて ……4
誌上博物館 ◇ 馬場家住宅を描いた絵図……5
博物館のノートから ◇ 博物館長退任にあたって ……6
ガイドコーナー ◇ はんてんぼく……8

掲載されている各種事業は、新型コロナウイルスの感染状況などによって急遽中止となる場合がございます。開催の可否などについては、各館にお問い合わせください。

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

新博物館“ここ”にあり!
建設前発掘調査特集

今年10月、松本市立博物館は松本市大手の大名町通り沿いで再スタートを切ります。

かつてこの場所には何があったのでしょうか？

新博物館の建設前に行われた発掘調査「松本城三の丸跡 大名町第３次発掘調査」の成果とともに、この地の近世と近代の姿をご紹介します。

近世~松本城三の丸の武家屋敷~

松本城の三の丸には、松本藩主に仕えた武士のうち、特に上級の武士が住んでいました。大名町にいた武士は250 ～ 500 石クラスで、500 坪前後の広大な敷地が与えられていました。

▲黒枠が新博物館、赤い部分が今回の発掘調査範囲です。屋敷地には、藩主戸田家家臣の重鎮であった武士の名前が連なります。

『享保十三年秋改松本城下絵図』(部分・松本市教育委員会)

江戸時代の水道管

竹製の管を木のジョイントで繋げて長く伸ばしていました。

上級武士の大きな庭園

大きな池や畑の跡が見つかりました。

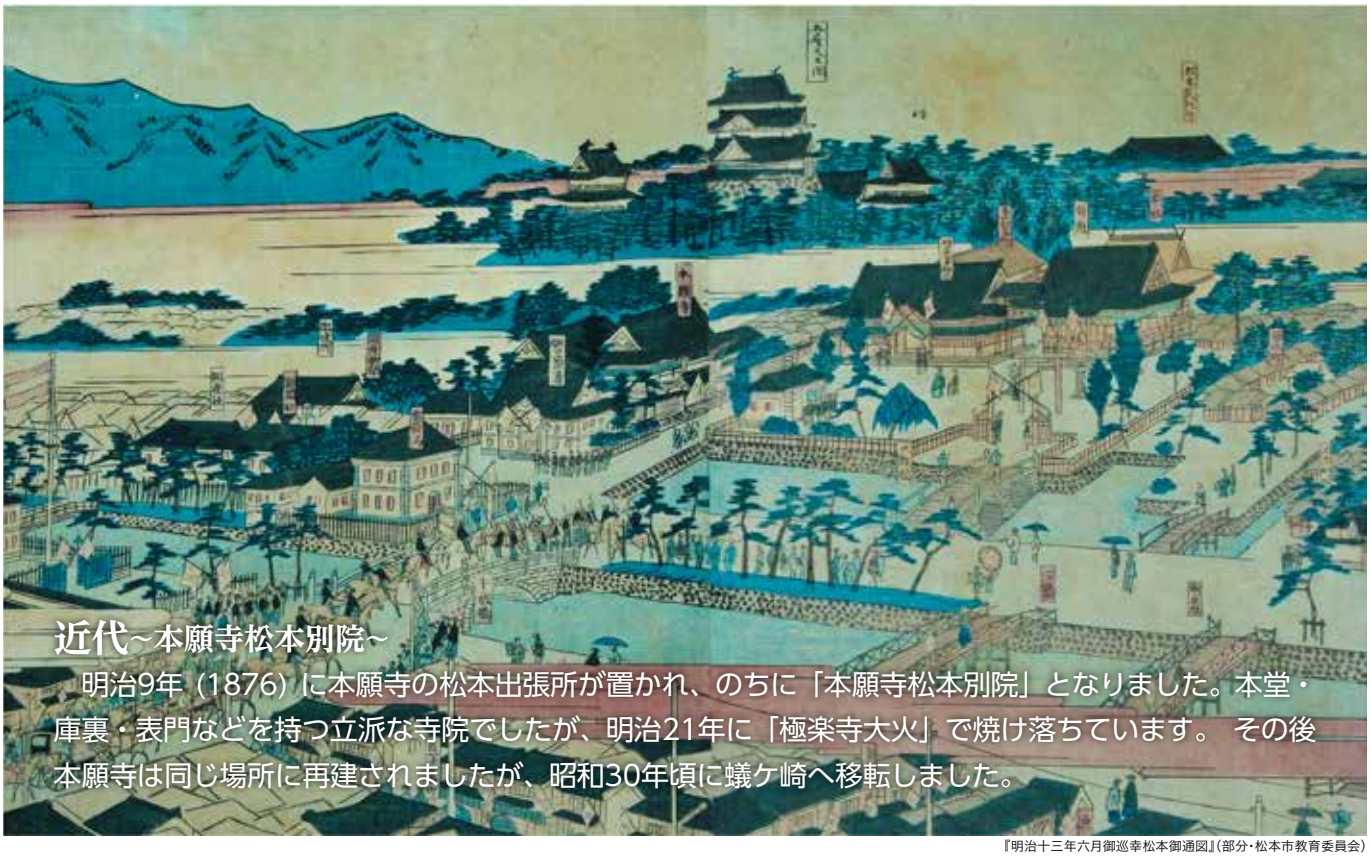
きっと立派な庭園が広がっていたことでしょう。

池の跡

畑の跡

出土品が語る武士の暮らし

調査地からは可愛らしい土人形やミニチュアの建物が。武士たちの暮らしの楽しみ方が垣間見えます。



近代~本願寺松本別院~

明治9年（1876）に本願寺の松本出張所が置かれ、のちに「本願寺松本別院」となりました。本堂・庫裏・表門などを持つ立派な寺院でしたが、明治21年に「極楽寺大火」で焼け落ちています。 その後本願寺は同じ場所に再建されましたが、昭和30年頃に蟻ケ崎へ移転しました。

『明治十三年六月御巡幸松本御通図』（部分・松本市教育委員会）

本願寺本堂の跡？

直角に曲がる溝は、本堂周りの雨落ち溝の跡だと考えられます。

大量に捨てられた瓦

「極楽寺大火」の爪痕

南深志の大半を焼失し、松本町最大の大火といわれた明治21年の「極楽寺大火」。

大量に捨てられた瓦や赤く焼けた土など、激しい火の手が及んだことがうかがえます。

赤く焼けた土

（松本市立博物館　学芸員／吉澤せり子）

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

～ 職場体験『博物館のお仕事』～
リニューアル・オープン準備中の現場にて

再オープンに向けて準備中の博物館。今回菅野中学校の生徒４名を迎えて、新型コロナウイルスの影響もあり、今年度は３年ぶりに実地での職場体験を実施しました。その様子を報告します。

■古文書資料のアーカイブ状況を見学。知識と根気が必要です！

1　旧館での資料整理

現在､収蔵されている資料は12万点以上。民具、工芸、古文書、考古資料など、時代も形態も様々な資料が収蔵されています。旧館の収蔵庫で資料の保管状況、機械室では施設管理について理解を深めました。

■松本の歴史と文化を知っていただくための展示室

2　急ピッチで行われている新館での展示準備

松本市立博物館の歴史について学ぶレクチャーでは積極的に質問もあり感心しました。その後、本年度のみの特別プログラムとして、現在進められている新館での展示準備の様子も少しだけ見学していただきました。特に収蔵庫には４名とも興味津々。徹底された温湿度管理は、大切な松本の宝を後世につなげるためであることを理解していただけました。

3　資料の「運搬」と「梱包」

■各自工夫して卵の梱包に挑戦。

昼食の後、縄手通り経由で街並みを散策してお城の敷地内にある旧館へ戻ってきました。午後の部の演習のテーマは「資料の梱包」です。コロナ禍にあって、私たちの生活の中で大きく変わったことの一つに物流があげられます。あらゆるものが宅配便で自宅まで届けられます。この課題のねらいは、資料を安全に新しい博物館に運搬する時の「運搬」と「梱包」について考えていただきたいとの思いから設定しました。

4　演習：割れない卵の梱包

■各自の個性がでたパッケージ

■さあ、２階から落下！

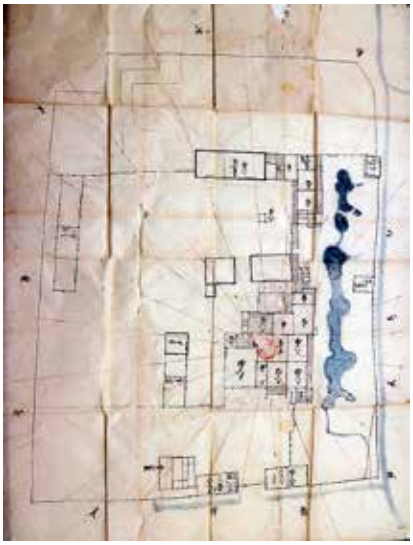
普段何気なく行っているものを包む行為「梱包」。今回のミッションは２階から地下階へ落としても割れない、生卵の梱包です。使う道具は、段ボール、エアキャップ（プチプチ）、ガムテープ、カッター。緩衝材の工夫などそれぞれの個性が箱に表れ、意欲的に取り組んでいただくことができました。２階テラスからの落下実験は盛り上がり、なんと全員が成功！帰りの意見交換で「博物館で仕事をしたい」との感想に感激しました。この体験がみんなの未来に繋がることを期待します。

（松本市立博物館　学芸員／大島浩）

馬場家住宅を描いた絵図

はじめに

昨年、馬場氏所蔵品から一枚の絵図が見つかりました。縦 103 ｃｍ、横 74cm の絵図には、馬場家住宅全体の平面図が詳細に描かれており、屋敷の全容をうかがい知ることができます。屋敷を詳細に描いた他のものに、明治 28 年（1895）の家相図がありますが、発見された絵図では、随所に家相図の記載との違いが見られます。ここでは、絵図が描かれた年代を考察するとともに、現状との相違点について一例をご紹介します。

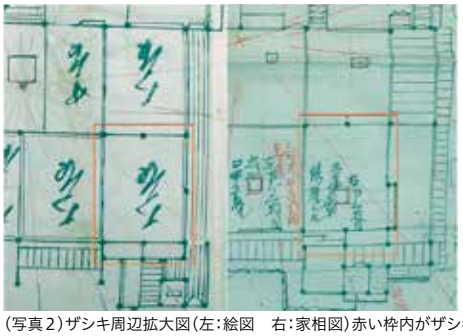


（写真1）発見された絵図（左が北）

1　絵図の制作年代

絵図には、茶室が描かれています。馬場家住宅の南東部に位置する茶室は、建築部材や内部の襖絵を基に建築年代が判明している最も新しい建造物であり、その年は明治３年頃と考えられています。

主屋のザシキを見ると、家相図では、書院がザシキの南（写真２では右側）に位置するイリカワ側に突き出る付書院になっています。一方、絵図では書院の突き出しが見られません。ザシキの付書院は、平成４年（1992）に始まる修復復元工事以前からの形態を残し、明治 28 年以降変化がなかったと考えられている部分です。絵図では、隠居屋内の付書院が突き出した形で描かれていることから、作図上の省略ではなく、絵図の作成当時、ザシキの書院は付書院になっていなかったものと見られます。付書院への改造時期について、『松本市重要文化財馬場家住宅第Ｉ期修理報告書』では、「書院立法仕上、18 工、持送り８工」と書かれた明治 13 年の文書があることから、ザシキにおける付書院への改造をこの時期に求められると指摘しています[1]。



（写真２）ザシキ周辺拡大図（左：絵図　右：家相図）赤い枠内がザシキ部分

以上から絵図は、茶室完成後からザシキにおける書院改造前までの明治３～ 13 年頃の制作と推測され、明治時代初期における馬場家住宅を描いていると考えられます。

2　絵図にみるイリカワの様子

現在の馬場家住宅は、家相図に基づき明治 28 年直後の姿に修復･復元がなされています。では、発見された絵図と現状ではどのような違いがあるのでしょうか。イリカワを例に見てみます。

イリカワと、イリカワに接続するロウカの幅は、現在１間（約 1.8 ｍ）ありますが、絵図では半分の幅になっています。また、今のイリカワは、畳敷きになっており、ロウカとの間も板戸で区切られていますが、絵図ではイリカワから廊下まで板張りの続き間になっています。庭に面する部分の濡れ縁も、絵図では見られません。現在見られる優美なイリカワは、近代を迎えてから整えられたものであり、当初は違った様相を示していたものと思われます。

（写真3）イリカワの様子

終わりに

明治 28 年以前の馬場家住宅の様相については、各建造物に残された痕跡や古文書の記述から個別に推測されるものでした。今回発見された絵図は、家相図以前における馬場家住宅の姿をより鮮明に映し出すとともに、屋敷が経てきた変遷を私たちに教えてくれます。今後も、この絵図に関する調査を進め、かつての馬場家住宅の姿をお届けしたいと思います。

（重要文化財馬場家住宅　主任／宮下慶祐）

（注）

⑴吉澤政己「建物の概要」（『松本市重要文化財馬場家住宅第Ｉ期修理報告書』第２刷（平成 24 年）：18 頁）

博物館長退任にあたって

はじめに

私は、昭和62年に松本市役所に入所以来、36年間の勤務を終え、この3月をもって定年退職を迎えます。36年間の総てを、文化財保護と博物館活動で過ごさせていただきました。これからの参考になることもあろうかと思い、ここに、携わった事業のうち、おもなものについて記しておきます。

昭和62年の入所時の配属は松本城管理事務所でした。当時はバブル景気真っ盛りで、年間100万人前後の方が松本城を訪れていました。私が担当したのは赤羽コレクションという火縄銃の受け入れと、「鉄砲蔵」と称する展示の立ち上げです。何の経験もない新規採用職員が、国宝天守内に火縄銃の展示を任されるという暴挙を、松本市はやってのけたのです。このころの博物館は、観光活用以外の視点は持っていなかったように思います。

こうした状況が、平成5年の国宝松本城400年まつり及び信州博覧会まで続き、平成6年度からは観光客の入込は減少に転じました。平成7年度の行革見直しで博物館のあり方が問われ、当時の太田陽啓館長の「博物館は観光施設という位置づけに向かって推移しているが、社会教育施設という使命を捨てていいのか」という問いかけにより、地域博物館としての使命の重要性に気づかされました。自身33歳の時ですが、これが私の学芸員としての真のスタートの年でした。

松本まるごと博物館

その後平成8年度にかけて、博物館や文化課の皆さんとともに、社会教育機関としての博物館の役割を考え直し、たどり着いたのが松本まるごと博物館構想でした。この構想の理念で重視したのは、地域博物館として市民の学習拠点になることと、博物館の資料だけではなく市域にあるすべてのモノを学びの対象とするという姿勢です。地域を学ぶことでその魅力に気づき、市民が精神的に潤い、その魅力が地域を豊かにするという考え方です。

最初に取り組んだのは平成9年度の年中行事の講座です。自身が講師となり、初めて取り組んだ講座です。七夕行事と三九郎について、それぞれ体験を取り入れた3回の連続講座とし、この講座から七夕人形手作りキットや行事食のまゆ玉サービスが生まれました。

ボランティア活動が始まったのもこの年です。中央公民館のボランティア講座を受講した皆さんから博物館でのボランティア活動の申し出を受け、試行を行い、翌平成10年度から正式にエムの会として活動を開始し、この機関紙、『あなたと博物館』の発送作業や特別展の監視を担っていただきました。月1回の例会を設定し、発送作業の無い月には松本の歴史文化に関する学習会を開催しました。この学習の成果を活かし、展示室で来館者と交流をしたり、まゆ玉やほうとうなどの行事食のサービスを行っていただきました。エムの会は足掛け25年の活動で、旧博物館の観覧業務の休止とともに活動に終止符を打ちました。

この年、年中行事の講座を調査スタイルに発展させ、受講生とともに七夕行事の調査を行いました。グループを作り中心市街地、郊外、人形店に分かれて調査し、情報を共有しました。この調査で、人形を飾る風習、人形の販売ともに、かなり限られた実施状況であることが確認されました。この調査結果を受け、平成17年度に七夕人形コレクションの重要有形民俗文化財指定50周年記念展「七夕と人形」を開催することとなり、市民学芸員養成講座の開催につながりました。

話が前後しますが、平成11年度には、議会からの要望もあり、松本まるごと博物館構想を改めて市の計画として策定し直すこととなりました。私はこの年、文化課に異動し、その事務局を担当させていただきしました。これは、私にとってとても大きなできごとでした。この構想では、以下の4つの基本理念を掲げました。

1　松本の豊かな自然環境や文化・産業等の遺産を活用し、地域振興に寄与します。
2　市民が主体的に関わることで、市民生活に精神的な潤いを与えます。
3　高度情報化社会に対応する、情報の収集と発信の拠点とします。
4　博物館がこれまで果たしてきた役割を重視し、市民の学習及び研究の拠点とします。

私は、このなかでも「地域振興に寄与する」ということと「市民が主体的にかかわる」ということを大切に、これまで活動してきました。

しかし、松本まるごと博物館構想の実現は容易ではありませんでした。「市民が主体的にかかわる」仕組みとして、初めに取り組んだのが友の会の設立でした。平成14年度に友の会の設立が計画され、試行錯誤を繰り返していた担当を、同15年度に博物館に戻って山村里佳学芸員（現在は課長補佐）から

引き継ぎました。2年がかりで設立した友の会では、博物館と連携して鎮守の森の調査講座を実施しました。多くの会員の参加を得てモデル的な事業を実施したつもりでしたが、会員の皆さんが居住地域の神社を調査するという活動には至りませんでした。

もっと集中的に指導する講座をということで、平成18年度には市民学芸員養成講座が始まりました。私は翌年の第2期生を担当させていただきました。調査結果をレポート集にまとめるという課題を果たしましたが、今も受講生の皆さんから「あのレポート集、大切にしてるよ」と言っていただきます。しかし、その後ボランティア養成と混同されてしまい、講座の開催を見合わせていた時期が続きました。平成30年に講座を復活し、最後の年である今年もこの講座を担当させていただき、月1回の受講生の皆さんと交流できる日を楽しみにしています。「市民が主体的にかかわる」ための市民学芸員養成講座は、今も大切にしている事業です。

歴史文化基本構想

平成22年度、文化財課に異動し、歴史的風致維持向上計画という行政計画の策定に携わりました。この計画は「人々の生活と町並みが一体となった良好な環境（歴史的風致）の維持・向上を図り、次世代へ継承すること」を目的としています。文部科学省、農林水産省、国土交通省が連携して取り組む法定計画ですが、その運用指針は「文化財を周辺環境まで含めて総合的に保存及び活用するための基本的な構想である『歴史文化基本構想（筆者注・以下「歴文構想」という。）』を策定し、それを踏まえた歴史的風致維持向上計画とするよう努めることが望ましい。」としていました。

私は、松本まるごと博物館構想を具現化するために、歴文構想を策定すべきだと考えました。しかし、この時点では歴文構想の策定は努力目標でした。平成24年2月にようやく策定指針が示され、同25年度から構想策定に着手することになりました。文化庁は、ベースとなる文化財の把握方法を、コンサルタントに委託して既存の調査成果を網羅するよう想定していましたが、松本市では市民自らが文化財把握調査を実施することとしました。そのため、策定に要する期間は標準の3年ではなく、5年としました。この進め方について、庁内の理解を取り付けてくれたのが、伊佐治裕子文化財課長（現在は教育長）でした。この松本市の取り組みは一定の評価をいただき、文化庁が主催する平成26年度の歴史文化基本構想研修会が松本市で開催されました。

こうした手法がとれたのは、松本城天守をはじめとする多くの文化財建造物を市民が中心となって遺してきた松本市の文化財保護の歴史があるからです。35の行政地区単位で取り組んだ文化財の把握調査は、住民の皆さんが改めて地域の歴史文化に目を向けるきっかけになったものと思います。調査の成果は、松本市全体としては『松本の念仏塔と念仏行事』の報告書1冊だけですが、地区で文化財調査の結果を冊子にまとめて刊行したところ、文化財マップを作製したところ、文化財調査の組織がそのまま保護団体として活動を続けているところなど、地区の皆さんが考えて継承に取り組んでいます。

また、松本市は、歴文構想に基づき、いち早く文化財保存活用地域計画を策定しています。歴文構想という文化財保護のマスタープランを実行に移すためのアクションプランに当たります。現在は、この地域計画のもとで「まつもと文化遺産」という制度を立ち上げ、地域の住民が、地域の文化財を後世に伝えていくための取り組みが始まっています。

おわりに

以上、私の経験のなかから、2つの取り組みについて記させていただきました。共通するのは市民の皆さんとともに、松本について学ぶということです。こうした取り組みを通じて、地域の皆さんからたくさんのことを教えていただきました。

新しい博物館では、こうした学びで発見した松本の魅力を、市民の皆さんや観光等で松本を訪れる皆さんに伝えていければと思います。学んだことを他人に伝えることで、相手からの情報を引き出し、さらに学びを深めることができます。

また、学んだ松本の伝統文化をベースに、新しい松本の魅力を生み出していくことも期待されます。松本の先人たちは、古いものを大切にしながらも、常に新しいまちであり続けることを実践してきました。伝統文化と先端技術を融合させること、そしてそれを外に向けて発信することは、松本の人たちが最も得意とするところです。

1階活用市民会議の提言で示された「出会う　つながる　巡る　そして、生まれる」というコンセプト。松本市立博物館は、このコンセプトの実現に向けて、市民の皆さんとともに活動してまいります。

（松本市立博物館　館長／木下守）

※申込み・問合せは各館へお電話ください

展示スケジュール

詳細はホームページへ！ https://www.matsu-haku.com/ まる博 検索

館名称	3月	4月	5月
松本民芸館	■企画展　丸山太郎秀逸展「旅の鞄」 3/14㈫～7/9㈰		
松本市はかり資料館			■工芸の五月参加企画「中町と民芸」 4/29㈯～5/31㈬
窪田空穂記念館	■「松本の子どもの短歌（うた）・2022」入賞作品展 3/11㈯～4/16㈰		
重要文化財馬場家住宅	■季節展示「ひなまつり」 2/26㈰～4/2㈰		■季節展示「端午の節句」 4/29㈯～6/4㈰

※料金は通常観覧料　※月曜休館（休日の場合は翌平日）

窪田空穂記念館から

☎0263-48-3440

「松本の子どもの短歌・2022」入賞作品展

「松本の子どもの短歌・2022」の作品展です。市内の小中学校から応募いただいた3,572首の中から、最優秀賞・優秀賞・空穂会賞に入賞した作品を紹介いたします。

会　期　3月11日㈯～4月16日㈰
会　場　窪田空穂記念館　会議室
観覧料　無料(常設展示は通常観覧料。大人310円、中学生以下無料)
問合せ　窪田空穂記念館まで

短歌講座受講者募集

本講座では、皆さんに事前にご投稿いただいた自作の短歌をもとに、現代歌壇で活躍する４人の先生方に、ひとつひとつの作品にこめられた言葉の魅力をお話ししていただきます。

日　時　①第1回　6月3日㈯　②第2回　7月8日㈯
③第3回　9月9日㈯　④第4回　10月7日㈯
いずれも午後1時40分～3時50分
会　場　窪田空穂生家(窪田空穂記念館向かい側)
料　金　1講座につき1,000円
定　員　各30人(要予約・先着順)
講　師　①三枝浩樹氏　②米川千嘉子氏
③内藤明氏　④大下一真氏
投稿方法　受付後に、投稿用はがきを受講回数分まとめてお渡しします。投稿歌をご記入の上、締切日までにご返送ください。投稿歌は、自作の短歌で1講座につき1人1首とします。
投稿歌締切日
①5月9日㈫　②6月13日㈫
③8月15日㈫　④9月12日㈫
申込み　4月11日㈫から窪田空穂記念館へ
（応募用紙はHPに掲載しておりますので、ご覧ください。）

時計博物館から

☎0263-36-0969

古時計ネジ巻き見学会

通常、開館前に時計技師が行っているねじ巻きや時刻合わせを特別公開します。古時計の新たな魅力を発見してみてください。

日　時　令和5年3月11日(土)・12日(日)
各日午前9時～午前10時
会　場　時計博物館　1階・2階常設展示室
料　金　通常観覧料(大人310円　小中学生150円)
定　員　各日10人程度(要予約・先着順)
申込み　3月7日(火)午前9時～3月10日(金)午後5時に電話で時計博物館へ

旧山辺学校校舎から

☎0263-32-7602

昔の遊び道具作り教室

昔のおもちゃを作ります。

日　時　6月18日(日)　午前9時～正午
会　場　教育文化センター　206会議室
料　金　無料
定　員　25人(要予約・先着順)
対　象　全年齢(小学校低学年以下は保護者同伴)
講　師　荒田直氏、青柳秀人氏
持ち物　軍手、鉛筆、飲み物(必要な方)
申込み　6月6日(火)午前9時から電話で旧山辺学校校舎へ

前号(あなたと博物館　№242 2022.12.15)誤植のお詫びと訂正
博物館TOPICS　企画展『図面でたどる松本高等学校―大正から令和へ　講堂築100周年―』(7p)
下記の誤りがございました。お詫びして訂正致します。
ページ右部分　講堂の図面　説明文4行目
【誤】　松本光津学校
【正】　松本高等学校
（旧制高等学校記念館　学芸員　高山峻一）

あとがき

新博物館建設地の歴史を改めて振り返ると、この土地の先人たちからバトンを渡されたような気持ちがします。今年10月に松本市大手での再出発を控えた松本市立博物館。この場所でこれからどんな歴史を紡いでくれるのでしょうか？

（松本市立博物館　吉澤せり子）

あなたと博物館 No.243
発行年月日/令和5年3月15日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL：https://www.matsu-haku.com/
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.lg.jp
印刷　川越印刷株式会社